

Title	ドレフユス事件(大佛次郎著, 天人社刊行)
Sub Title	
Author	間崎, 万里(Masaki, Masato)
Publisher	三田史学会
Publication year	1931
Jtitle	史学 Vol.10, No.1 (1931. 3) ,p.143- 144
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	書評
Genre	Journal Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19310300-0143">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19310300-0143</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

# 書評

## ドレフユス事件

(大佛次郎著  
天人社刊行)

古くはジャンヌ・ダルクの出現、近くはレオン・ドーデの事件があつた。もちろん彼こそは全く別個の事件であるけれども、一脈相通する佛人の個性を、又その國民性を之と關聯して思ひ浮ばしめるものがある様に思はれる。佛國ならではと思はれる斯様な事件の中にブーランジェー事件に次いで、最も世間を騒がせたドレイフユス事件があつた。

砲兵大尉ドレイフユスにからまる佛國の軍機漏洩事件は事もさ陸軍部内の一小事件であつて軍法會議を以て決すれば足るだけのものであつたが、アルサス生れの彼が、歐洲人の又保守主義者の忌み嫌へるユダヤ人であつた處から、當時佛國內に盛んに唱へられたるドリユモン一派のユダヤ人排斥運動は彼に對して冤罪を強ゆるの姿となり、かくして雪冤を求むる正義のための再審運動は生ずるに至り、ローロール紙上に於ける小説家エミール・ゾーラの佛國大統領への目覺しき公開狀は一層その勢を昂めた。世界大戰に際し戰勝内閣の首相として又バリ會議の議長として佛國を双肩に荷つて立つた政界の名士今は亡き(一九二九年十一月二十四日歿)クレマンソー「虎」の如きは人權擁護聯盟(Ligue pour la défense des droits de l'homme et du citoyen)を組織し、社會主義

者の大立物ジョーレス、考證史學の大家ガブリエル・モノー、小説家アナトール・フランスの如きもこの運動に加はつた。彼のソルボンヌに於けるパン・ルーヴェ教授をして學界を退いて政界に身を投ぜしめ、後ち幾度か陸相として臺閣に列し又自からも首相として内閣を組織するの運命に立至らしめたのも又この事件なのであつた。ドレイフユスを罪に陥れた國粹主義者の陸軍々閣は軍部の威嚴のために飽く迄も初説をこつて動かず、ために本問題は佛國を再審論者と非再審論者の二個の陣營に分ち、後者はカトリック保守派、國民主義者、僧侶の大部分、殆んどすべての陸軍將校を含み、彼等はユダヤ人とその後援者を以て反逆者組合(Syndicat de trahison)から資金を仰げりさなすドレイフユス派に對抗して祖國の擁護者を以て任じ、l'honneur de l'armée et le respect de la chose jugée を唱へて、手段を撰ばず戰つたのである。他方再審派はLa vérité est en marche! とゾーラの公開狀中の文句より出でたるLa justice et la vérité! のスローガンの下に争ひ、權利の濫用と裁判の拒否を非議し、sabre et soupillon! に向つて戦かひ、ゾーラの裁判に際しては法廷の前に於て前者が、參謀本部と眞の犯人エステラーシーのために、Vive l'armée! Vive la France を唱ふれば、後者はVive Zola! Vive la République! を以て應酬し、宛然敵者の對立せるが如くであつて、紛糾錯雜せる諸要素が國を擧げて騷擾したのみならず、又遂に世界の問題とすらもなるに至つたのであつた。

一八九四年ドレイフユス裁判の事あつてより、一九〇六年七月、佛國大審院がレンヌの再審軍法會議の判決を無條件に破毀し、彼

の軍籍を復し位階を進めて少佐に任じ、レジオンドノール騎士章を授與し、ピカール亦前判決を取消され軍籍を復し、次いで同年十月陸軍大臣となり、既に一九〇二年に死せるゾーラも國葬を以て名譽のパンテオンに合祀せられて、全く事件の落着を見るに至るまで前後十有二年の間、之がために幾多の内閣を仆し連續陸相を罷免し佛國政界稀有なる事件の系列は見られたのである。これは十九世紀末に於ける漸次共和政確立運動の優勝に至る途上、前のブランジエー事件から後の政教分離運動への中間の一過程であつて、佛國政治上頗る重要な一事件なのであつた。之によりて王政は全く破壊せられて不信用となり、共和諸派は社會黨と共に緊密なるブロックを形成し、多年國會に於ける多數を制して共和政治を確立し、軍部をもその配下に收め、明白なる反教主義の法律を制定せしむるに至つたからである。

本書は新世界叢書中の一篇をなす一つの小説に過ぎないけれども、大佛次郎氏の叙述は、事件の經過を波瀾重疊せるこの大事件の幾多のシーンを比較的正確に又鮮かに描出してゐる。史實にのみ没頭せる史學者に對しては、時にまつての清涼劑として、有益に又面白く讀まるゝものである。斯様な著述は本邦に乏しき西洋史の知識に寄與する所あるものとして、我等も亦紹介の勞を惜むべきではない。

但し本書の終末は聊か龍頭蛇尾の傾があり、一般史書に見られるだけの知識をも展開し得ざる著者に對しては聊か同情を禁じ得ない處であるが、氏は親しくパリに於てこの研究を進められるとの事であるから、この部分だけは他日補訂せられるものと見てよ

からふ。(間崎万里)

Catalogue of the Keiojuku Library

(Classified). 80. 1929. Pp. 1702. Index

216.

慶應義塾圖書館藏有の洋書目録が先般完成して裝訂美しく出版せられるに至つた。從來同館は和漢書目録の外洋書目録と、年報の姿を以てせる増加目録とを編纂したことがあるけれども、それは數冊に亘れるために全般を通じて檢索するには不便であつた。然るに本書はそれ等の缺陷を悉く補充し、且つ大英博物館の圖書目録よりも我等には便利に出來てゐる。それは最後の索引に於て頁の外に所屬部門が附記せられた親切さに於ても見られるのである。

但しかゝる編纂物の常として若干の缺陷は免れない所である。試みに私の氣附いた所を指摘せんに Lavisse, Ernest & Rambaud Alfred; Histoire générale は宇大史の部門(五七九頁)には九卷より十二卷に至る四冊の破本が掲げられてある。確かに同館には全部揃つてゐる筈なので、諸國史の部門(六一四頁)を搜して見ると、こゝにはその全部が細記せられて載せてある。前者は星文庫の分に屬し後者は別の書物なのである。之は言ふ迄もなく兩部門に双方を載せて置くべきものである。又索引で Fustel de Coulanges を引いて見た。之はあるべき筈の(F)の部に一冊も記されてゐない。事實本はあるのだから(E)の部に之を求むると數冊が記されてゐ